

第2回目 参加者の 声

各校の取組を聞くことも、質疑応答も刺激的で面白かった。発見や学び、やる気が生まれた。

ワークシートを記入し、生徒・教員の両観点から活動内容を振り返ることができた。ワークシートを参考にさせていただき、校内研修で用いて、来年度以降に生かしていきたい。

「現在の学校状況では、すぐに変えられない！」と思いながら研修を受ける回もあったが、振り返ると、その時に得た知見を1年後、2年後活かすことができたこともあった。学校内外のアセット/リソースに目を向け、既存のものに気付くことから、更に広く開拓し取り込むことまで、幅広い人材や実践をご紹介いただき、感謝している。

地域を巻き込んで「一緒に学校教育をつくる」という意識を教員もメンバーの方ももてば、よりよい教育活動になりうると思いました。

(3年間の研修を通して)「変えること」に抵抗が少なくなったように思います。主担当教員が目標・目的をしっかりと伝えることで、変化に後ろ向きでなく、前向きに話が進められたように思います。

生徒を楽しませるには、まず教員が楽しめないといけないと感じました。

講師や他校の教員から様々な取組や課題を聞くことで、自校にとってどのようなカリキュラムが有効なのかを考える幅を広くしていただいた研修だった。

やはり「生徒が変われば授業が変わる」じゃないですね。「教師が変われば授業が変わる、授業が変われば生徒が変わる」ですね。教育委員会が変われば研修が変わるも納得ですが、やはり多くの先生が真摯に生徒と向き合っている事実も確認できてよい研修に参加させていただけたと思っています。

生徒が主体的に探究学習に向かっていけるように、カリキュラムの見直しを図る。具体的には1年次に恒例化して固定になっている講演会等の時間を減らし、学校の地域資源を生かした探究のサイクルを一周することができる取組を行う。

*イラストはイメージです

学校魅力化コーディネータ養成研修とは？

広島県教育委員会学びの変革推進部高校教育指導課が「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」の一環として行っている研修です。令和3年度から各学校が定める教育目標の実現を目指して、カリキュラムの開発及び教員の資質・能力の向上を図る取組をすべての県立高等学校で行っています。

教員の資質・能力の向上については、カリキュラム・マネジメントの三側面を意識した研修を行っており、「学校魅力化コーディネータ養成研修」は、その第三の側面「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。」に焦点を当て、学校の内外リソースの効果的な活用を図ることを意識して研修を実施しています。

本研修は総合的な探究の時間等を推進する教員を対象にして、大学教員等を講師に迎え、年間2回行っています。

企画・発行：広島県教育委員会
Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)
発行年月：令和6年3月発行

Peace&Science Innovation Ecosystem (PSI) とは？

PSI (Peace & Science Innovation Ecosystem) は、中四国の15大学から構成されるプラットフォームです(2024年2月末現在)。産学連携の活性化を通じた共同研究の推進、スタートアップ企業の創出、学生と地域企業との協業、海外のエコシステムとのネットワークの構築により、イノベーションの創出と次世代を担う人材育成、地域経済の活性化を目指していきます。

主幹機関	広島大学
共同機関	岡山大学、島根大学、愛媛大学、徳島大学、高知大学、香川大学、鳥取大学、広島市立大学、叡啓大学、県立広島大学、広島修道大学、安田女子大学、岡山理科大学、川崎医科大学
幹事自治体	広島県
協力機関	中四国地域を中心とした産学官民間関係機関

令和5年度 高等学校 課題発見・解決学習 推進プロジェクト

学校魅力化 コーディネータ 養成研修

第2回目 実施内容 まとめ編

第2回目 研修実績

令和6年
1/26

9:30-16:40

会場：ヒルトン広島

広島市中区富士見町 11-12

参加者

広島県内の
県立高等学校の
総合的な探究の時間等に
携わる教員など

研修の 内容

午前の部

講義・演習

「プログラム評価①
～現在のカリキュラムについて把握する～」

講師：叡啓大学 川瀬真紀

午後の部

演習・協議・全体共有・発表・講話

「プログラム評価②
～カリキュラム評価を行い、カリキュラムを更新する～」

講師：叡啓大学 川瀬真紀

「講評・講話

3年間の振り返りと次年度に向けて担当者に期待すること」

講師：一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 岩本悠

研修の 目的

社会に開かれた教育課程の実現に向け、学校内外の人的・物的資源等を活用して、より効果的に学校の魅力を高めるためのカリキュラム・マネジメントを充実させることができる教員の資質・能力の育成を図る。

主催：広島県教育委員会

共催：Peace&Science Innovation Ecosystem (PSI)

*広島大学が主幹機関、叡啓大学が共同機関となっているプラットフォーム

HIROSHIMA

午前の部

プログラム評価① 現在のカリキュラムについて把握する

講師：叡啓大学 川瀬真紀



今年度の研修目的の1つ「実施した総合的な探究の時間のカリキュラム評価を行い、次年度の全体計画や指導計画、単元計画を改善することができる。」に取り組んでいただきました。

各学校の今年度カリキュラムの編成・実施をもとに、「教育・学習の検証サイクル」(Suskie, 2009; 2012)に沿い、カリキュラム評価と改善方法を演習しました。各学校策定の「令和5年度総合的な探究の時間の全体計画及び年間指導計画」を使い、目標とした資質・能力【知識及び技能】、【思考力、判断力、表現力等】、【学びに向かう力、人間性等】について生徒たちが身に付けているかを確認いただきました。また、探究の過程【課題の設定】、【情報の収集】、【整理・分析】、【まとめ・表現】について、指導観点からの取組について検討いただきました。最後にカリキュラムについて見直しを進め、来年度に向けて具体的な改善案をまとめ、グループ内、外部講師からのコメントをヒントに考えていただきました。



午後の部

プログラム評価②

カリキュラム評価を行い、カリキュラムを更新する

講師：叡啓大学 川瀬真紀



講評 講話

3年間の振り返りと 次年度に向けて 担当者に期待すること

人間社会
至る所に
探究あり



講師： 岩本悠

一般財団法人
地域・教育魅力化プラットフォーム

Message

講師・メンターからのメッセージ



川瀬真紀

叡啓大学

担当カリキュラムについての丁寧な検証を個人での演習に加えて、他校での取組からの学び、また、グループになった意見交換を活発に進めていただきました。先生方は、カリキュラム評価・改善は、検証と見直しから始めるため、細かい作業を伴いながら、生徒さんの資質・能力の何を伸ばしたいか、そのために、どのような指導をされていられるか、ご自身に問いかけながら演習されている様子でした。来年度に向けて、ユニークな点を加えられた各学校のカリキュラムを準備されますようお願いしております。



大野圭司

株式会社ジブノオト

定時制や通信制の公立高校で尽力されている先生方の多様な実践事例を共有できたことが何よりの成果だと感じました。自己理解をさらに充実させる必要がある、アルバイトにキャリア教育の観点を加える、園芸等で地域の方との関わりを深めるなどの意見交換をすることができました。私たちは「最後の砦」という言葉に生徒への愛情と使命感を強く感じました。



笠井礼志

一般社団法人まなびのみなど

研修のなかでお聞きした実践は、実社会・世界と関わる機会づくりのある取り組みでした。どれ一つとして同じものではなく、学校・地域が持つ文化を土台としながら、先生方が生徒とともに、創意工夫しながら、探究カリキュラムを創造されていることを感じました。今後とも何かお手伝い出来ましたら幸いです。



貴船桃佳

ワンテッドリー株式会社

先生方が自らの学校で行っているプログラムをさらに魅力的なものにしようとする熱量がひしひしと伝わってくる1日でした。グループ活動の場では、各学校での課題が他校との連携で補い合えることが判明するなど、新たな視点の発見もありました。これからは、学校同士の協働によるプログラムが生まれることも期待しています。



小林圭介

島根県立矢上高等学校
高校魅力化コーディネーター

先生方が知見を共有する姿が印象的で、強いエネルギーを感じました。先生方がこの研修で得た大きな学びは“仲間”なのだと思います。ここに集った先生は、探究や学校、広島の未来を作るエネルギーです。そして広島にとって重要な Piece であり、Peace を希求する世界の宝です。私も広島県人。少しでもそのお手伝いさせていただければ幸いです。



西堀正英

広島大学
大学院統合生命科学研究所

今回のワークショップでは、一人で抱えていた問題、学校内だけでは解決できなかった課題なども解決の糸口が見えたのではないのでしょうか。探究活動では、グループ、地域であるいは時に大学教員を交えてチームワークで取り組むことの重要性も認識できたのではないのでしょうか。ともに探究の最適解あるいは納得解を求めて取り組んでいきましょう。



前田奈津枝

広島県立加計高等学校北分校
高校魅力化コーディネーター

私も参加された先生と同じように悩みながら試行錯誤してきたので、共感や提案が溢れる時間でした。正解がないので悩みが尽きませんが、何か授業を作る上でのヒントが持ち帰られていたらいいと思います。私も含め高校の力になりたい外部人材はたくさんいるので、遠慮なく繋がって活用していただきたいと思います。



山田芳雅

合同会社ひとむすび

3つの小グループを担当しましたが、課題に思っていることが様々だったのが印象的でした。学校内での先生の巻き込み・1、2年生から3年生への接続・ディスカッションの方法など、先生方が悩まれながらも、工夫されている点を共有し合うことができました。また研修が終わった後も、同グループ内で多くの先生が机に残り、資料を見せ合いながら意見交換をされているのも印象的でした。